令和５年度　全国高等学校選抜大会　「審判員報告」

Ｃ２　審判長　　黒須真希

１．採点上打ち合わせた事項

（監督会議での報告事項も含む）

① 適用規則の確認

採点規則 2022 年版　変更規則Ｉ

女子体操競技情報 33 号

② 採点指針の確認

③ 新技申請

なし

④ 監督会議の連絡事項

・適用規則の確認

・採点指針の確認

・審判員の変更について

・新技申請について

２．採点上起こった事項とその処理

特になし

３．その他　特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、D1 審判を中心にスムーズに採点業務を進めることができ無事競技を終えることができました。

今大会は 2024 年の採点指針をもとに採点を行いました。2024 年の採点指針は全体として身体の細部までコントロールされた常に美しい姿勢での演技」「欠点のない正確な技の実施」「着地の先取りができた高い体勢での安定した着地」の３本の柱となります。採点指針に挙げている内容は、日本の課題であり、日本全体で強化していくべきことです。１つ目の姿勢に関すること、２つ目の正確な技の実施については、昨年に引き続き取り組むべき内容として挙げています。３つ目の着地に関する項目については、2024 年の指針として新たに入れた内容であり、日本全体で強化していくべきことの１つです。着地については「ステップ」や「とび」はもちろんですが、着地の時に頭が下がったり、深いしゃがみ立ちになったりする着地は減点が増える原因になります。着地をする場面はすべての種目にあり、特にゆかは複数回着地の場面があるため、着地の減点が増えると全体の減点合計も多くなってしまします。今大会を見ていても、先取りができた高い体勢での着地ができていない選手が多い印象でした。

また、未完成な技を演技に入れようとしている選手がいることが気になりました。競技会は完成された演技を発表する場です。補助がなければできない技や余分なエバーマットを入れなければできない技は競技会で使えるところまで仕上がっている状態な

のか疑問に感じます。未完成な技を演技に入れることによって、大過失がなかったとしても、その他の減点が増えることに繋がりますし、怪我の恐れもあります。競技会で行う演技構成を熟考し、１番高いスコアを獲得できる可能性が高い構成を選択してほしいと思います。指針の内容は、日本の課題となるところであり、この課題を解決していくことで得点につながります。夏の競技会に向けて、各選手の課題を解決できるようトレーニングを積んでいただければと思います。

Ｃ２　跳馬

Ｄ１審判員　白川　千尋

１．採点上打ち合わせた事項

① 採点指針の確認（情報 33 号）

・D スコアの高い跳躍技の実施

・跳躍全体にスピード感があり、高さと距離を伴うダイナミックな実施

・着地の先取りができた高い姿勢での安定した着地

上記採点指針をもとに、各審判が各跳躍の理想像を持って採点を行うこと。第一空中局面の膝の曲がりや脚の開き、支持局面のひねり不十分、着地の姿勢に特に注視し、各局面において著しい技術不良や、危険を伴うような未完成な跳躍、ダイナミックさに欠ける跳躍に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 10 章「種目特有な実施減点」の項目を有効に使用し、厳密に減点することを確認した。

② アシスタントの任務内容を確認

・練習回数と１回の練習とカウントされるものの確認

・境界線の踏み越しについての確認

・監督からの再確認の要求に対応できるよう、すべての過失の記録は残しておく

２．その他、採点上起こった事項とその処理

特になし。

３．その他特記事項・意見・感想

跳躍を実施した選手 53 名中、D スコア 5.0 以上の跳躍を実施した選手は 3 名、4.6 以上の跳躍を実施した選手は 3 名、4.2 以上の跳躍を実施した選手は 30 名であり、第２空中局面で１回ひねり以上の跳躍技に取り組んでいる選手が７割近くを占めていました。

E スコアについては、9.0 以上の選手は 13 名であり、支持局面からの突きあがりにスピード感あり、高い姿勢で安定した着地ができるダイナミックな跳躍が数多く見られました。その一方で D スコアの高い跳躍技を実施しても、第一空中局面での膝の曲がりや脚の開き、支持局面でのひねり不十分など各項目 0.30 以上の減点が伴うような跳躍、もしくは着地の

先取りができず低い体勢での着地になってしまう跳躍については、高い E スコアを獲得することはできませんでした。

2024 年採点指針では「D スコアの高い跳躍技」を推奨はしていますが、姿勢欠点が多く、高さスピードのない実施については厳密に採点することとしています。難しい跳躍技に挑戦する前段階の技において、実施減点が少なく雄大で着地の先取りができるような跳躍が習得できているか今一度振り返り、跳馬の醍醐味であるダイナミックさを表現できるように練習に励んでいただきたいと思います。

Ｃ２　段違い平行棒

Ｄ１審判員　木村幸代

１．採点上打ち合わせた事項

（１）採点指針の確認（情報 33 号）

「①　腕の曲がり、膝・つま先の緩みがない美しく伸びた体線での正確な技の実施」

「②　車輪系の技や支持回転系の技、空中局面を伴う技の振幅が大きいダイナミックな実施」を最重視し採点を行うこと、採点上の留意点にある「け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技などの基本技の姿勢」「各技の振幅の大きさ」においては特に注視することを確認した。指針に沿わない演技には減点項目に則り厳密に減点をするとともに、指針に沿った演技とはＥスコアにて明確に差をつけることも確認した。

そして、採点指針の①②を満たせたうえで「③　多様な技を取り入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成」を評価することを確認した。

（２）短い演技についての確認

「短い演技」と D 審判団が判断した場合は、技の実施数によりＥスコアの最高点が変わるため、その都度承認した技数をＥ審判団へ口頭にて伝えることを確認した。

（３）アシスタント任務の確認

計時の任務内容（練習時間・中断時間の計り方）を確認した。また、中断時間の計測開始を避けるために故意に立ち上がらない場合、中断時間中に止血が必要であると判断された場合、終末技が胴体着地の場合についての対応も確認した。さらに、コーチから計時の減点の再確認の要求があった際には速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことをお願いした。

２．採点上起こった事項とその処理

特になし

３．その他特記事項・意見・感想等

シーズン初めの寒さも残るなかでしたが、段違い平行棒においては大きな怪我もなく、予定していた全選手の演技を無事終えられたことに安堵しております。冬場に練習してきたであろう各技は、成功する選手ばかりではありませんでしたが、さらに完成度を増した演技となるよう次の大会に備えて欲しいと思います。

これまでも「美しい姿勢での演技」を意識した練習を積まれてきていることと思いますが、今後もより一層意識するとともに、「け上がり、後ろ振り上げ倒立や支持回転系の技などの基本技の姿勢」こそ大切にして欲しいと切に願います。採点指針では「美しい姿勢での演技」が満たせていることの先に、組み合わせ点を獲得できる演技構成を評価するとあります。組み合わせ点（0.10/0.20）を獲得できるような構成であっても、その各技に0.30以上の減点が発生している演技も多くありました。また終末技ボーナス0.70を得るためにＤ難度の技を実施していても、ボーナス以上の減点が発生している演技も見受けられました。高いＤスコアだけが評価される採点指針ではありませんので、選手自身も目指す体操を明確にして欲しいと思います。次年度、日本全国の高校生の演技がさらに素晴らしいものとなっていることを願っています。

Ｃ２ 平均台

Ｄ１審判員　香月あゆみ

１．採点上打ち合わせた事項

・採点指針(情報33号)の確認
採点指針の①～③を重視すること。
それを満たした上で④の「高いＤスコアの獲得を目指した演技構成」であればそれを評価し採点を行う。

・個々の技に対しては、姿勢欠点や、技の高さが不十分、正確さに欠ける、着地での欠点等あるものには、厳密に必要な減点をする。

・芸術性においては、身体の姿勢が悪い、膝・つま先が緩む、身体を最大限に使えていない演技に対しては「芸術性と構成の減点」の「演技全体全体を通して芸術的表現に欠ける」の項目に則り、厳密に減点をする。
また、変更規則Ｉでは身体の姿勢が悪い」「大きさ不十分」「つま先が伸びない/足が緩む/足が内向き」は0.10/0.30と幅があることを確認した。

・アシスタント審判員の任務の確認
計時審判員の任務内容の確認（練習時間、演技時間・中断時間の計測）
コーチからの減点の再確認に備え、過失はすべて記録しておくことを確認した。

２．採点上起こった事項とその処理

・Ｄスコアの修正　１件

審判長へ報告し、改めてスコアを表示した。

３．その他　特記事項・意見・感想等

今大会は、大過失のある演技が多く見受けられました。一度落下をすると、それ以上落下しないように、ふらつきが増えたり、焦って芸術的表現まで意識ができなかったり、その後の演技にも大きく影響していたように思います。また、難度は承認されているが姿勢欠点があったり、技の高さが不十分であったり、正確さに欠けるダンス系の技の実施も多く見受けられました。その様な中でも、個々の技の減点が少なくＤ難度やＥ難度のダンス系の技に挑戦している選手も見受けられました。高いＥスコアを獲得するためには、ダンス系の技をいかに正確に実施できるかが重要だと思います。ただジャンプをとぶだけ、ただ開くだけ、ただターンをするだけではなく、身体の細部までコントロールされた美しい姿勢で正確な実施ができるように、技の理想像を持って練習に励んでほしいと思います。

そして、採点指針に掲げている「立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技」と「身体を最大限に使い、演技全体に流れのある芸術的な演技」を重要視し採点を行いましたが、美しい姿勢と思える選手は少なく、腕は動いていても、身体を最大限には使えておらず、膝が伸びない、足首が伸びない、足の指先まで力が入っていない、つま先立ちが低い、など欠点のある選手が多く感じられました。ダンス系やアクロバット系の技の正確さはもちろんのこと、立ち姿勢や歩く姿勢が美しいかどうかも評価される採点指針であるため、選手は技を実施することだけでなく身体の細部にまで意識をもたせなければならないと思います。これは簡単なことではく、日々の練習で意識が必要であると思います。高いＤスコアを目標に難しい技に取り組むことも必要ですが、美しい姿勢で、欠点のない正確で安定した演技を行う意識を忘れず、日々の練習に励んでほしいと思います。

Ｃ２　ゆか

Ｄ１審判員　大川由美子

１．採点上打ち合わせた事項

・採点指針の確認

体操競技情報 33 号に記載されているゆかの採点指針を確認し、ゆかに求められる演技の理想像を理解した上で採点することを確認した。

正確かつ美しい姿勢による完成度の高い演技を評価すること。芸術性や構成に関する減点項目の中で、変更規則Ｉにおいて減点幅の大きくなっている項目も確認しなが

ら、ゆかから足が離れた時点からつま先を伸ばす意識や立ち姿勢の美しさ、表情も含めたその表現力にいたるまで技以外の部分も注視し、指針に沿った演技とそうでない演技は減点項目に則り明確に差をつけることもあわせて確認した。

・アシスタントの任務確認

計時・線審の各任務内容の確認

過失の際はメモなどで記録を残し、コーチから減点に関する確認があった際にも対応できるよう確認した。

２．採点上起こった事項とその処理

特になし

３．その他　特記事項・意見・確認等

今大会では転倒など大きな過失のある演技は例年と比較して少なかったように感じました。この冬などに習得した技を入れて、新たな構成でチャレンジした選手も多かったのではないかと思います。積極的に組み合わせ点（ＣＶ）を得るための構成にチャレンジしている選手も多く、全演技の 5 割超の選手が獲得できており、その最高値は 0.30 でした。同様に終末技をＤ難度で終えて終末技ボーナス 0.70 を獲得できた選手は全体の 37%となり、積極的な構成で挑んでいることがうかがえます。

Ｅスコアにおいては 8.0 以上のスコアを獲得できたのは 5 名で全体の 10%に満たない結果となりました。（参考：7.5 以上 8.0 未満 約 33%、7.0 以上 7.5 未満 約 30%、7.0 未満 27%）

今大会から適用となった体操競技情報 33 号に掲載した今年の採点指針に示したゆかの演技に求められているものを理解し、その実施に生かそうとしている様子がうかがえました。その中でも今回の採点で気になったのは以下の 4 点です。

・ＣＶや終末技ボーナスの獲得など積極的な構成で挑んではいたものの、姿勢欠点や着地の減点が大きくなかなかＥスコアの高得点に結びついていないこと

・アクロバット系の技の着地姿勢の減点（特に頭が下がった着地姿勢）となる演技が多いこと

・ダンス系の技では、その姿勢や高さ、正確さの減点が多いこと

・振付や曲の選択など、芸術性を意識して準備・練習してきていることはうかがえるが、表情を含めた表現力についてはまだまだ乏しい演技が多かったこと

アクロバット系・ダンス系の技を問わず、承認されるのか、されないのかだけではなく、その実施姿勢（膝やつま先の美しさ・開脚度・手の指の先まで意識された実施など）も意識し、減点のない着地姿勢とあわせて、その技の理想像を目指していただきたいと思います。また「芸術性と構成の減点」において、その一つひとつの項目内容を確認い

ただき、どのような実施（演技）であれば減点なく評価されるのか、何が足りずに減点されてしまっているのかを確認していただきながら、技以外の部分にも着目しその選手に合ったゆかの演技となるよう、今後の大会に向けて練習に励んでいただきたいと思います。

以上